

SUGINAMI GUIDE BOOK

杉並区勢概要ポケット版

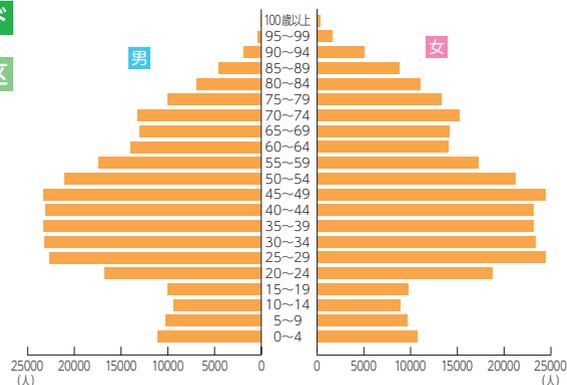


データで見るすぎなみ

人口 **574,280人** 世帯数 **325,518世帯**

人口ピラミッド

杉並区



全国



令和元年10月現在

子どもの人口 (15歳未満)

60,323人

合計特殊出生率

1.03人

※平成30年
東京都人口動態統計

認可保育所定員数

12,080人

※平成31年4月1日現在

30年度から
待機児童ゼロ
継続中



外国人人口 **18,434人**

1位 中国 6,329人 2位 韓国 2,851人

3位 ネパール 2,218人 4位 ベトナム 1,539人 5位 台湾 1,056人

区民の定住意向

87.6%

住みよいと思う

96.1%

※令和元年杉並区区民意向調査



樹木本数 **35,914本**

1位 サクラ 5,945本

2位 ケヤキ 5,373本

3位 イチョウ 3,499本

※平成29年度杉並区みどりの実態調査



公園数 **327カ所**

※平成31年4月1日現在

1人あたりの公園面積 **2.07m²**

※平成31年4月1日現在

一人1日あたりのごみ **466g/日**

※平成30年度



8年連続で
23区最少!

区指定・登録文化財 **149件**

商店街等 **131カ所**

町会・自治会 **159団体**

商店数 **3,106店**

※平成28年経済センサス

※特に出典や日付の記載がない場合は、令和2年3月1日現在

杉並区のプロフィール



位置・面積

武蔵野台地の上、東京23区の西端に位置し、一般に「城西地区」と呼ばれる区域に属しています。おおむね方形で、東は中野区・渋谷区、西は三鷹市・武蔵野市、南は世田谷区、北は練馬区に接し、その面積は34.06 km²と23区中8番目の広さを持っています。



区名の由来

杉並区の地名の起りには、江戸時代のはじめ、成宗・田端両村の領主であった岡部氏が、領地の境界の印として、青梅街道にそって杉並木を植えたことに始まります。その後、杉並木はなくなりましたが、「杉並」の名は村名として採用され、町名さらに区名となって現在に至っています。

区の紋章

「杉」を幾何学的に圖案化したもので、区制施行20周年を記念し、昭和27年10月1日に制定しました。
〔デザイン=故・恩地孝四郎画伯〕



コミュニケーションマーク

新しい時代にふさわしい魅力あるまちを創造していく姿勢を明らかにするために平成4年3月11日に制定しました。



宣言

杉並区平和都市宣言

世界の恒久平和は、人類共通の願いである。いま、私たちの手にある平和ゆえの幸せを永遠に希求し、次の世代に伝えよう。ここに杉並区は、核兵器のなくなることを願い、平和都市を宣言する。

(昭和63年3月30日制定)

杉並区男女共同参画都市宣言

人は歴史を創り 人は未来を創る
思いやりの心をもとに
男女が 性別を超え 世代を超え
互いに個性や能力を尊重し
さまざまな分野に参画し
心豊かな 明日の世代へ夢をつなげ
平等と平和の輪を広げるため
杉並区は

ここに「男女共同参画都市」を宣言します
(平成9年12月1日制定)

交通安全杉並区宣言

近時、車両運行の急激な増加にともない、区内における交通事情は悪化の一途をたどり、事故は日とともに激増の傾向にあることは、まことに憂慮に堪えないところである。杉並区は人命を尊重し、区民の生命財産をまもり、区内における交通事故の絶滅を期するため、これが施策を推進することを決意し、ここに交通安全都市を宣言する。

(昭和40年3月31日制定)

区の木

区内の緑を“守り、ふやし、育てる”ことを目標に「みどりの条例」を制定(昭和48年11月1日施行)し、区の木を『杉』『アケボノスギ』『サザンカ』の3種に決めました。



杉



アケボノスギ



サザンカ

すぎなみの歴史



高円寺駅周辺
(大正13年)



荻窪駅北口周辺
(昭和19年)



通勤ラッシュ時の阿佐ヶ谷駅
(昭和36年)



角川庭園

区内北部を流れる井草川(現在は暗渠)・妙正寺川や中央部の善福寺川、南部の神田川の流域の台地上や湧水地周辺には、約3万年前から人々の生活跡が遺されています。

平安時代末頃から武蔵武士と呼ばれる武士団が登場し、室町時代には江戸氏一族の諸流「あさかやとの(阿佐谷殿)」などの勢力下にありました。

江戸時代には、新田開発によって耕地面積は増え、成立した20の村々は、幕府領や旗本領(今川氏・岡部氏など)、赤坂山王神社の社領として支配を受けました。区内には甲州街道の高井戸宿を抱え、将軍家の鷹場もあり、村々はそれらの役負担も担いました。

杉並区の誕生

大都市の近郊農村として野菜や穀物栽培を中心とする農村地にも産業化の波が訪れました。明治45年に原蚕種製造所(後の蚕糸試験場)の設立や、大正14年には中島飛行機東京工場の開設などはその一端です。大正12年の関東大震災以後は、新たな住居を求めて都市部の人々が移り住んだことで、急速に住宅化が進んでいきました。

昭和7年10月1日に、杉並・和田堀・井荻・高井戸の四町が合併し、東京市杉並区が誕生しました。戦後は、路面電車やバス、地下鉄などの交通網の発達により、都心へのアクセスのよい住宅都市として発展してきました。

西の鎌倉、東の荻窪

かつて荻窪界限は「西の鎌倉、東の荻窪」と称される別荘地として、著名人が邸宅を構えました。音楽評論家の大田黒元雄や、俳人で角川書店の創始者・角川源義、昭和前期に首相を三度つとめた近衛文麿などが代表的です。前者二つは「大田黒公園」「角川庭園」として整備され、後者は、国史跡「荻外荘(近衛文麿旧宅)」に指定され、現在「(仮称)荻外荘公園」として整備中です。

また、大正～昭和期に活躍した文化人の多くも、自然の残る郊外を生活の場として好みました。与謝野鉄幹・晶子夫妻や、『荻窪土記』の著者である井伏鱒二、井伏を慕って移り住んだ太宰治などが知られています。

昭和7年	10月	杉並区誕生
昭和8年	8月	井の頭線開通
昭和18年	7月	東京府と東京市合併で東京都に
昭和19年	8月	集団疎開で長野・宮城県に
昭和27年	10月	区の紋章が決まる
昭和29年	5月	原水爆禁止で杉並協議会が発会
	8月	第1回阿佐谷七夕まつり
昭和32年	8月	第1回高円寺ばか踊り (現：東京高円寺阿波おどり)
昭和37年	1月	地下鉄丸ノ内線開通
昭和38年	12月	都電杉並線廃止
昭和40年	3月	交通安全都市宣言
昭和48年	9月	みどりの条例制定
昭和57年	8月	杉並区歌・杉並音頭を制定
昭和58年	1月	杉並清掃工場が本稼働
昭和63年	3月	平和都市宣言
平成4年	3月	コミュニケーションマーク制定
平成9年	12月	男女共同参画都市宣言
平成11年	10月	杉並区公式ホームページ開設
平成12年	11月	南北バス「すぎ丸」運行開始
平成14年	10月	全国男女共同参画宣言都市サミット開催
平成15年	1月	ノーベル物理学賞受賞者の小柴昌俊さんが名譽区民の第1号になる
	10月	安全美化条例・路上禁煙地区スタート
平成16年	7月	防犯カメラの設置及び利用に関する条例施行(全国初)
平成17年	7月	杉並区独自の教師養成塾として「杉並師範館」を設立(全国初)



南北バス「すぎ丸」



エクレシア南伊豆



杉並区誕生バレード(昭和7年)



第2回東京高円寺阿波おどり(昭和33年)



都電杉並線廃止記念電車(昭和38年)

平成18年	4月	犯罪被害者支援制度がスタート(全国初)
	9月	杉並区のアニメキャラクター「なみすけ」を選定
平成19年	6月	「杉並子育て応援券」事業開始
平成21年	10月	「長寿応援ポイント」事業開始
平成22年	9月	中学生環境サミット開始
平成23年	3月	東日本大震災の発生(南相馬市の支援)
	4月	国内交流自治体による自治体スクラム支援会議設立
平成24年	4月	次世代育成基金を設置
	8月	平和市長会議(現：平和首長会議)に加盟
平成26年	11月	杉並ナンバー交付開始
平成28年	4月	「すぎなみ保育緊急事態」を宣言
平成30年	3月	自治体連携による特養「エクレシア南伊豆」開設(全国初)
	4月	「待機児童ゼロ」を実現

交流自治体

杉並区では、国内10、国外3の自治体と友好関係にあり、物産展などの経済・観光交流、子どもたちの相互訪問、文化・スポーツ交流など、さまざまな分野で友好関係を深めています。また、災害時相互援助協定を締結し、災害時における支援関係も強化しています。

自治体名	プロフィール
北海道 なよろし 名寄市	平成元年7月「交流自治体協定」締結（旧風連町） 北海道の北部に位置し、夏はひまわり畑が広がり、冬はダイヤモンドダストが見られます。市立天文台「きたすばる」や雪質が最高な名寄ピヤシリスキー場が有名です。
群馬県 ひがしあがつままち 東吾妻町	平成元年8月「友好自治体協定」締結（旧吾妻町） 群馬県の中西部に位置し、名勝吾妻峡や真田氏の上州の拠点となった岩櫃山が有名です。高原で栽培される野菜にはリピーターも多く、物産展にはぎわいます。
新潟県 おぢやし 小千谷市	平成16年5月「災害時相互援助協定」締結 毎年9月に片貝地区で行われる浅原神社例大祭（片貝まつり）の花火大会は、世界一の大きさを誇る四尺玉の花火が上がることで知られています。また、錦鯉の養殖が有名で、区との交流も、大田黒公園などの池への錦鯉の寄贈がきっかけになっています。
福島県 きたしおがほら 北塩原村	平成16年11月「まるごと保養地協定」締結 磐梯山と周辺の松原湖や小野川湖、五色沼などの湖沼群の自然景観は、昭和25年に国立公園に指定され、多くの観光客が訪れています。区民が現地を訪れ、宿泊や買い物時に割引を受けられる「まるごと保養地協定」の締結が交流の始まりです。
福島県 おひまろし 南相馬市	平成17年5月「災害時相互援助協定」締結 太平洋側に位置し、夏は涼しく冬でも降雪が少ない穏やかな気候が特徴です。一千年以上の歴史を有する「相馬野馬追」は、勇壮な甲冑競馬や神旗争奪戦などの伝統行事として全国的に知られています。
東京都 おうめし 青梅市	平成21年5月「杉並区と青梅市の交流に関する協定」締結 昭和59年まで、阿佐ヶ谷駅と青梅車庫の39kmを結ぶ都営バスが青梅街道を走っていたこともあり、御岳渓谷や吉野梅郷など都民の憩いの場として、一年を通して多くの観光客が訪れています。
東京都 むさしのし 武蔵野市	平成23年12月「災害時相互協力協定」締結 中央線や井の頭線が乗り入れるなど交通の便が良く、商業施設も充実する一方で、緑豊かで閑静な住環境が残されています。
山梨県 おしのむら 忍野村	平成24年8月「災害時相互援助協定」締結 富士山の麓の標高936mに位置し、豊かな湧水が有名な忍野八海と、そこから眺める忍野富士が有名で、多くの観光客や写真家が年間を通して訪れています。村内に、児童の移動教室として利用している富士学園があります。
静岡県 おひまいづちょう 南伊豆町	平成24年9月「災害時相互援助協定」締結 伊豆半島の最南端に位置し、年間を通じて温暖で、美しい海岸線や温泉などもあり、人気の観光地となっています。児童の移動教室として利用している弓ヶ浜クラブがあります。
東京都 おがさわらむら 小笠原村	平成25年7月「子ども自然体験交流事業推進宣言」を取り交す 大小30余の島々で構成され、世界でも有数の透明度を誇る海と独自の生態系を持つ動植物を有する自然の宝庫です。こうした自然の中で、地球環境などを考える機会とするため、毎年30名程度の中学生を募集し、小笠原自然体験を実施しています。



自治体名	プロフィール
オーストラリア連邦 ニューサウス ウェールズ州 ウィロビー市	平成2年5月「友好都市協定」締結 シドニー中心から車や列車で30分ほどの住宅都市です。平成25年から中学生海外留学事業を実施。選考で決定した中学生が、現地校での授業体験やホストファミリーとの交流などを行います。
大韓民国 ソウル特別市 瑞草区	平成3年12月「友好都市協定」締結 ソウル市を流れる漢江（はんがん）の南にある住宅都市で、韓国最大の「芸術の殿堂」や国立図書館もあります。牛眠（うみやん）や清溪（ちよんげ）などの山々の緑が漢江と調和する美しいまちです。
台湾 たいべいし 台北市	平成25年12月「青少年交流推進宣言書」を取り交す 中学生の親善野球大会をきっかけに、交流がスタートしました。親善野球大会は、交互に会場を変え、南相馬市の中学生も参加し開催しています。また、東京高円寺阿波おどりの台湾公演も実施するなど、スポーツや文化の交流を深めています。

交流自治体が一丸となって



平成23年に発生した東日本大震災。杉並区の交流自治体である南相馬市は、震災後に起きた福島第一原子力発電所の事故など多くの支援が必要となりました。その支援活動に、杉並区の他の交流自治体が協力を名乗り出てくれました。

「ともだちのともだちは、ともだち」という思いは、「スクラム支援会議」として正式な自治体間の絆として形になって、災害時などに相互援助を行うしくみが築かれました。

さらに、その活動が交流自治体間の共存共栄を目指す強固な関係性となって、様々な課題解決を目指す「交流自治体フォーラム」として発展しています。

すぎなみの四季

春

桜の名所！

区内を流れる妙正寺川・善福寺川・神田川などを中心に桜の名所が点在しています。毎年多くの方が開花を楽しみにしています。



夏

阿佐谷七夕まつり

J R 阿佐ヶ谷駅周辺の商店街で60年以上続くまつり。カラフルな提灯や吹き流し、手作りの大きな張りぼてがところ狭しと飾られ観客を楽しませています。



東京高円寺阿波おどり

高円寺地域で最大のイベント。1万人の踊り手と、100万人の観客の熱気がまちを包み込みます。



秋

大田黒公園の紅葉ライトアップ

区内有数の紅葉の名所、大田黒公園。ライトアップ期間中は、澄んだ水面に映る見事な夜景を楽しむことができ、茶室などを使った催しも開かれます。



阿佐谷ジャズストリート

阿佐谷の街がジャズ一色に染まる、秋の風物詩。毎年10月下旬には、飲食店や路上など60カ所以上を会場にジャズの演奏が繰り広げられます。

阿佐谷イルミネーション

12月、J R 阿佐ヶ谷駅前のアケボノスギをツリーに見立て、約2万個のLED電球でライトアップ。点灯式では地元の小中高生が演奏を披露し、会場を盛り上げます。



どんどやき

正月飾りやお守りなどを持ち寄り焼きます。その火には1年の厄を祓い清める力があると言われています。

冬

すぎなみの7地域

杉並区は各駅を中心に7つのエリアに分類されています。それぞれのエリアごとの魅力を少しだけご紹介します。

東京工芸大学
杉並アニメーションミュージアム



上井草スポーツセンター



井草森公園

井草エリア

西武新宿線が東西に貫く、農地や屋敷林が残る緑豊かな地域



桃井原っぱ公園

西荻エリア

アンティークショップや個性的な店舗が並び落ち着きにぎわいが共存するまち



柏の宮公園



杉並清掃工場

高井戸エリア

玉川上水が東西に流れ、水と緑に恵まれた京王井の頭線沿線地域



永福体育館のビーチコート

杉並清掃工場

高井戸駅そばの白い煙突の下が清掃工場です。57万人の杉並区民の可燃ごみを中心に焼却処理をしています。工場内には「東京ごみ戦争歴史みらい館」「高井戸の里あし湯」、外周には「ウォーキングロード」があり、施設開館中は自由に見学・利用ができます。



動画でも紹介しています



杉並公会堂



荻窪音楽祭



阿佐谷ジャズストリート

荻窪エリア

JR中央線はじめ主要交通路線の結節点であり、杉並区の経済・文化の中心地

阿佐谷エリア

区内最大のアーケード商店街、区内屈指の緑地帯を擁するなど活気と緑があふれる地域



善福寺川緑地

座・高円寺



高円寺エリア

中央線文化と称される地域の中でもとりわけディープな地域



高円寺演芸まつり

方南・和泉エリア

閑静な住宅街にありながら都心へのアクセスも良い、生活利便性の高い地域



郷土博物館(古民家)

神田川・環状七号線地下調節池

区を縦断している環状七号線の地下には延長4.5km、内径12.5mの巨大なトンネルが通っています。大雨が降った時には、神田川、善福寺川及び妙正寺川の水をこのトンネルに流し入れることで洪水の発生を防いでいます。



動画でも紹介しています



荻窪の三庭園

荻窪には、かつて芸術家や文化人等が暮らした建物が今でも残されています。杉並の歴史的な資源に親んでもらえるよう、公園として整備または整備中である3つの庭園を紹介します。



大田黒公園

音楽評論家「大田黒元雄」の屋敷跡（一部寄贈）を杉並区が日本庭園として整備し、昭和56年10月に開園しました。樹齢百年を超えるイチョウ並木や当時としては珍しい西洋風建築物などがあります。紅葉の時期にはライトアップが開催されています。



大田黒公園ライトアップ

(仮称) 荻外荘公園

荻外荘は、昭和戦前期に内閣総理大臣を3度務めた政治家「近衛文麿」の別邸で、重要な政治会談や組閣の舞台となった場所であることから、平成28年3月に国の史跡に指定されました。令和6年の完成を目指し、当時の姿に復原する取り組みを進めています。



創建当時の荻外荘

角川庭園

俳人で角川書店の創設者「角川源義」の旧邸宅を、遺族から寄贈を受けた区が改修し、平成21年5月に区立公園として開園しました。昭和30年竣工の建物は国の登録有形文化財に登録されており、国会などさまざまなイベントが行われています。

※開園時間・休園日などは区ホームページ等でご確認ください。

杉並区公式アニメキャラクター

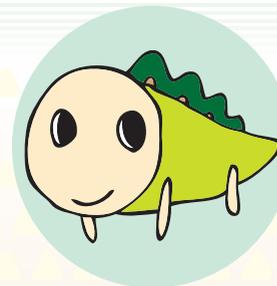
「なみすけ」と仲間たち



なみすけ

平成18年に公募で選ばれた、杉並区のキャラクター。杉並のまちの個性や文化などを「杉並の魅力」として、区内外に発信している。

誕生日は10月1日。実は20歳!!



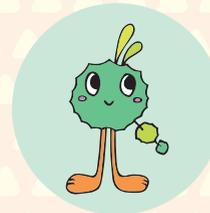
なみきおじさん

なみすけにいろいろなことを教えたり、相談にのったりするやさしいおじさん。口数が少なく、とてもクール。



スピト

どんなときもよくよしい、マイペース。特技はイライラしている人に爽やかな風を送ること、杉並区を案内すること。



ナミー

なみすけの妹。頭に花をつけている。お兄ちゃんが大好き。



タネタ

大きさは植木鉢に入るくらい。水と太陽が大好き。特技は芽を伸ばして、人を喜ばせること。



なみすけ豆知識

なみすけって？

なみすけはスギナミザウルス島に住んでいた妖精です。生みの親はグラフィックデザイナーの五味由梨さん。区民に長く愛されるキャラクターになるよう思いを込めて描いてくださいました。



すぎなみとなみすけ

小学1年生のランドセルカバーやマンホール蓋など、街のいたるところでなみすけが登場しています。



なみすけデザイン

なみすけのデザインは、事前申請して商品やサービスに無料で使うことができます（個人的、また家庭内での使用は申請不要）。詳しくは区HPの「なみすけの森」をご覧ください。





杉並区の情報ツール



1 杉並区公式ホームページ

区からのお知らせやイベント情報など、さまざまな情報をいち早くお届けしています。



2 広報すぎなみ

区の施策や講演・講座などの各種事業などをお知らせします。毎月2回、1日と15日に発行しています。



3 YouTube ユーチューブ (YouTube)

広報番組「すぎなみスタイル」「すぎなみビトMOVIE」をはじめ、区長記者会見動画や区が制作したさまざまな動画を配信しています。



すぎなみスタイル

区が行う取り組みをはじめ、まちの話題や出来事などを紹介しています。1日と15日の毎月2回配信しています。



すぎなみビトMOVIE

広報すぎなみの特集「すぎなみビト」を動画でお届けします。紙面に掲載されていないインタビューなどを紹介しています。



4 ツイッター (Twitter)

イベント情報など

アカウント名
▶杉並区広報課



地震・水防情報など

アカウント名
▶杉並区
(地震・水防情報等)



フェイスブック (Facebook)

区からのお知らせなど

アカウント名
▶杉並区広報課



杉並区勢概要ポケット版

令和2年3月発行

編集・発行 杉並区総務部広報課
〒166-8570 杉並区阿佐谷南 1-15-1
TEL (03) 3312-2111(代)

登録印刷物番号

31-0128